The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	OUFCブックレット　第9巻　あとがき
Author(s)	
Citation	OUFCブックレット. 2016, 9, p. 141-141
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55513
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

あとがき

本書は，2015 年 9 月 19 日，大阪大学で開催したワークショップ「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ（青旗）』データベースの構築・公開に向けて」の記録である（主催：大阪大学未来研究イニシアティブ「21 世紀課題群と中国」［提案代表者・田中仁］，科学研究費補助金・基盤研究(C)「東洋学学術資産としての石濵文庫の基礎的研究」［研究代表者・堤一昭］。共催：NIHU 現代中国研究東洋文庫拠点・政治史資料研究班）。

2014 年 12 月に開催した研究セミナー「戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ（青旗）』のデジタル化と公開の可能性」では，この資料に関する研究の現状をつかむとともに，国際的な学術ネットワーク形成の可能性をさぐった（詳細は OUFC ブックレット第 7 巻を参照）。今回のワークショップでは，この成果のうえに，紙面画像，多言語による目録データを統合するデータベース構築に向けた作業に向けて，具体的論点の明確化を試みた。

すなわちそれは，①都馬バイカル・桜美林大学准教授を中心と知る『青旗』研究会による記事索引，②ナランゲレル・内モンゴル大学教授による記事細目に加えて，③かつて旧大阪外国語大学アジア研究会が作成した『1940 年代アジア総合年表』を素材として，これに『フフ・トグ（青旗）』紙のデジタル･データを組み合わせることによって，どのようなデータベースを構築しうるのかという課題であるが, モンゴル語表記をふくむ多言語データベースの構築や知的所有権の問題など当初予想していた論点とともに, 記事目録の日本語訳の校閲の必要性や写真資料の意義など, ワークショップでの討議のなかで重要な課題や新たな可能性も確認された。

二回の研究セミナーやワークショップを通して，複合的学術資産『フフ・トグ（青旗）』の魅力を実感することができた。同紙データベース構築・公開に向けた多領域の協働と研究交流の可能性を現実化すべく，対話の輪をひろげたいと思う。　（田中仁）